

令和5年度秋田県立大館少年自然の家第2回協働会議（11月21日開催）

1 日 時 令和5年11月21日（火）午後2時00分～午後3時30分

2 場 所 秋田県立大館少年自然の家 視聴覚室

3 出席者

【委員】

高橋善之（会長）、佐藤 潔、月居祐二、鳥潟美奈子、大野美佐子

【大館少年自然の家】

佐々木所長、北林副主幹（兼）班長、花田主事、

木村主任社会教育主事（兼）班長、成田社会教育主事、阿部社会教育主事

【教育庁生涯学習課】

佐々木チームリーダー、渡辺社会教育主事

4 議事概要

- (1) 開会
- (2) 大館少年自然の家所長あいさつ
- (3) 教育庁生涯学習課長あいさつ（代読）
- (4) 会長あいさつ
- (5) 報告・協議

①報告

- ・令和5年度利用者状況について
- ・令和5年度主催事業及びその実績について
- ・令和6年度の経営構想について

②協議

- ・今年度の取組、運営等について
- ・次年度の取組、運営等について

- (6) 閉会

5 委員からの主な意見

- ・クマの出没警報に関連して、テント泊など危険で利用できないため自然の家ならではの活動のためにも対策を頑張っていたいただきたい。
- ・川遊び体験ではプールが苦手な水が嫌いな子ども楽しむことができたので、保護者からも喜びの声があった。
- ・クマが心配で自然の家の利用ができなかった。ぜひ、今後は利用していきたい。
- ・子どもがいないと自然の家の活動の情報が届きづらい、広報を活用して周知してはどうか。
- ・今年度の利用者数について、新型コロナウイルスが完全に収束したわけでもなく、クマ問題や猛暑などマイナスな要因が多かったなかでは健闘していると思う。
- ・秋田県の人口減少が避けられないのと同じように、自然の家の利用者数が減少するのも避けることはできない。
- ・以前主催していた宿泊通学学級を不登校傾向の子ども向け事業と併せてみてはどうか。また、メディアに依存しない生活習慣改善に宿泊通学学級を活用してはどうか。
- ・主催事業の夏のアドベンチャーは移動時間を短縮するためにも近くの山や施設の活用も検討していただきたい。